

色別恋人判定法

●ズバリ明かす！バルドーの秘密●



真理の御魂^{みたま}
最聖 麻原彰晃尊師

His Holiness the Master, Shoko Asahara

色別恋人判定法

真理の御魂^{みたま}
最聖 麻原彰晃尊師

オウム出版

色別恋人判定法



ISBN4-87142-043-4 C0014 P1500E 定価1500円（本体1456円）

色別恋人判定法

●ズバリ明かす！バルドーの秘密●



麻原彰晃

Shoko Asahara

❖ CONTENTS ❖

色別恋人判定法

●ズバリ明かす！バルドーの秘密●

❖ 恋人を選ぶポイントは“心の発する光の色”…………… 4



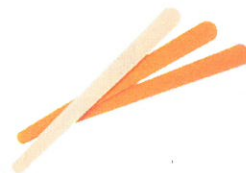
❖ 光沢は人生の方向を決める…………… 6



❖ 黒は地獄？ それとも愛欲界の魔王？…………… 10



❖ 虹色はエネルギーの強さのバロメーター…………… 16



❖ 赤、それは慈愛から怒りまでを表わす…………… 20



❖ 今生はびねす、来世もはびねす四天界…………… 26

❖ 愛欲界の色、それは橙（オレンジ）…………… 32



❖ 黄色、それは貪りの色…………… 42



❖ 緑は妥協…………… 58



❖ ブルー、それは執着の色…………… 80



❖ エネルギーの解放、それは藍より始まる…………… 94

❖ 紫は神秘性…………… 112



●恋人を選ぶポイントは“心の発する光の色”

人間として生まれた場合、二つの正しい生き方がある。その二つの中で最も正しい生き方は、人間としての普通の生き方を経験し、ありのままに経験を見つめ、超越する。そして、人間としての経験の意味合いをすべて理解した後、人間の社会を超越するために出家し、心を傾注し、人間界以上の世界である意識墮落天、行為戯れ墮落天、神聖天、神聖天より高い世界、非形状界（無色界）の世界等の一つ一つの世界を経験し、観察し、分析し、超越し、そして、大到達眞智完全煩惱破壊界へと至るこ
だいとうたつしんちかんぜんぼんのうはかいかい
とである。

そして、第二の選択は、この人間世界にありながら、人間世界の要素（カルマの法則）を学び、検討し、分析し、理解して、よりよい正しい選択をする生き方である。『えんじょい・はびねす』の読者の方々には、この後

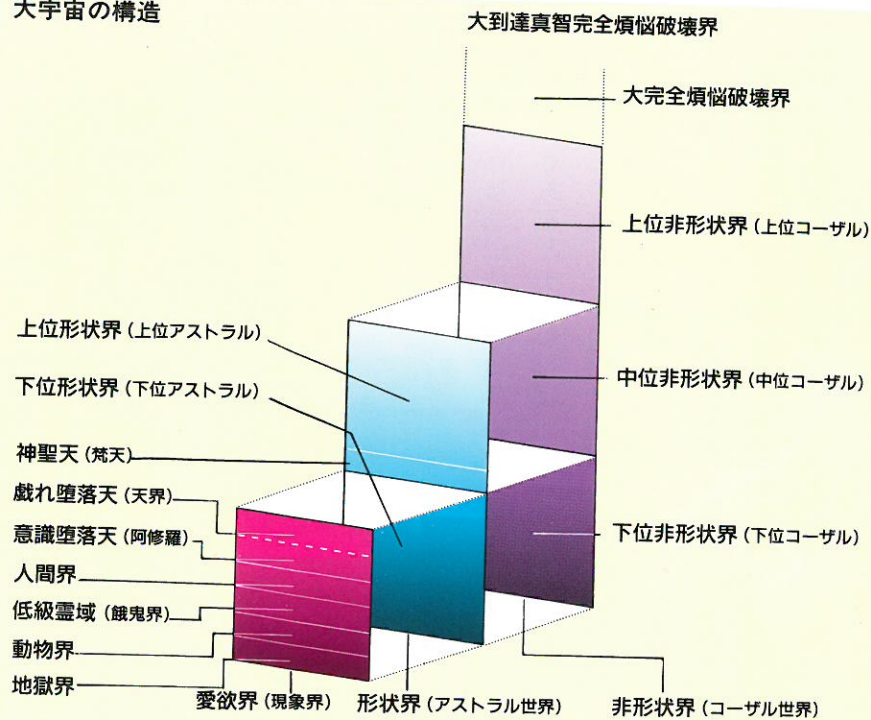
者の道を示し、その道を皆さんが理解することによって、皆さんによりよい楽しい幸福な人生を歩いていただきた
じんつう
いと考え、これからわたしが様々な経典理解と神通によつて経験し精通した、不思議な、そして、ためになる話をしたいと思う。

それでは、異性の洋服の色による、「色別恋人判定法」についてお話しよう。

わたしには七百名の出家した内弟子がいる。この内弟子たちは、マスコミでいわれているように未成年の男女がほとんどではなく、成人した、立派な男女が、様々な人生模様を経験した後に出家してきている。そして、彼らの人生模様と、彼らが発している心の光とは全く一致するのである。

この相手の発している心の光や、それより少し次元は落ちるが、彼らの持っている、彼らの習得した知識の光の二つを正確に天眼により見る*ことができるなら、この講話を読む必要はない。

大宇宙の構造



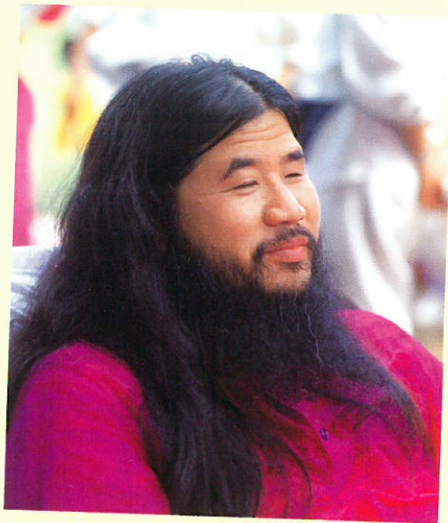
●光沢は人生の方向を決める

しかし、そのステージに到達するためには、大変楽しいが長い時間をかけた修行が必要だ。よって、ここではイラストを利用して皆さんの即理解できる正しい異性の見分け方を話したいと思う。

しかし、いくらこの色彩による正しい異性の選び方の法則を理解していたとしても、皆さんの運命というのは、特別な意識レベルの変化がない限り、カルマの力の方が勝つ。その点はご了承願いたい。

人生の歩き方については、大きく分けて二つのタイプがある。その第一のタイプは、上昇志向型であり、もう一つは安定型、または墮落型である。

この現象の世界Ⅱ愛欲界（欲六界）へ地獄・動物界・餓鬼界・人間界・意識墮落天・行為戯れ墮落天」において、光や光沢というものは、その人の生きざまを表わす。

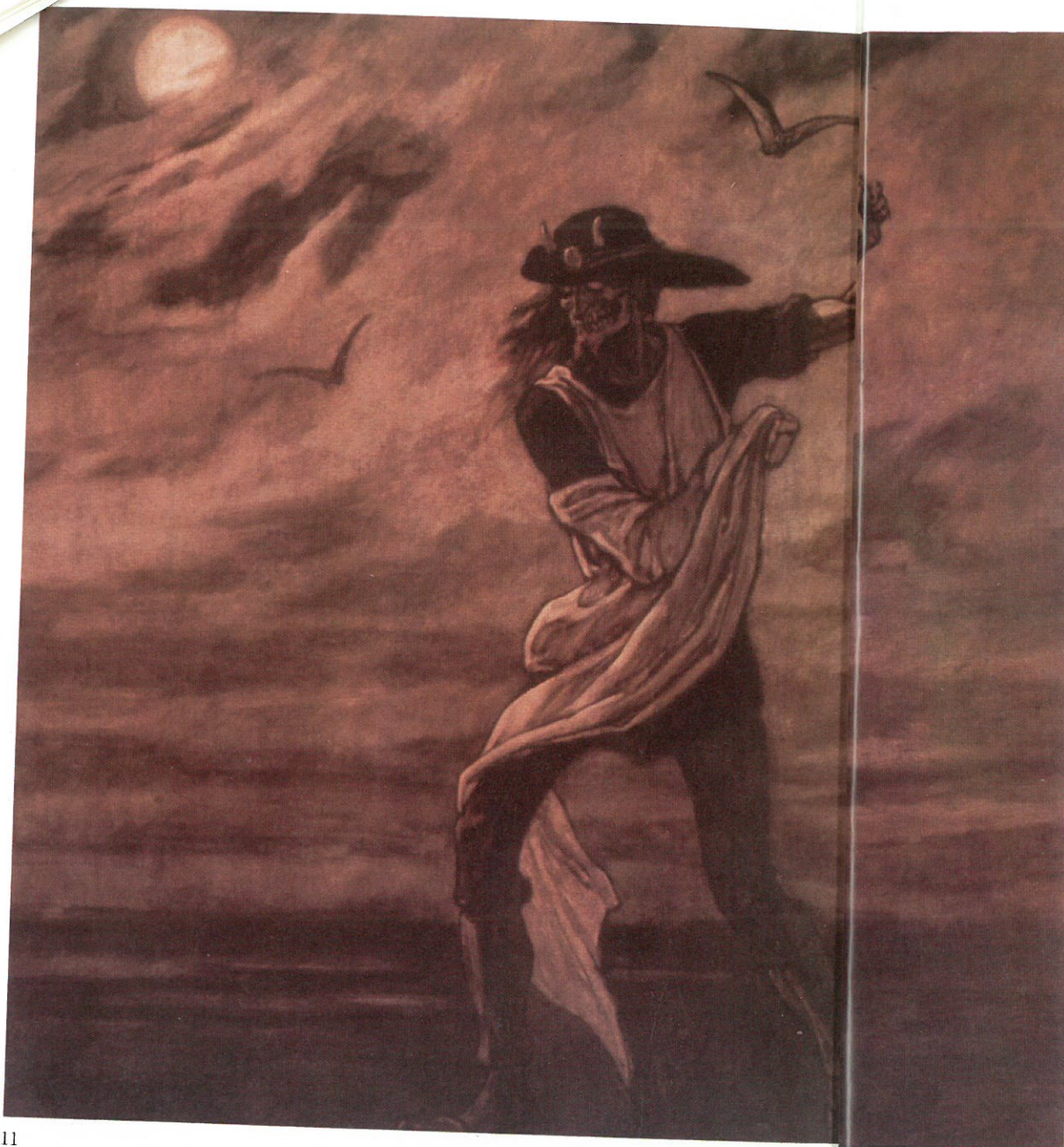


合、浮気の十や二十は覚悟しておいた方がよい。

また、彼がどの道をたどってこの世において成功しようと思すかについては、彼の好みの色を知る以外に術はないことになる。

例えば、ここに、一人の貧しい若者がいたとして、彼が光る衣装を身に着けていたり、光沢のある衣装を好むという傾向があった場合、その時点での彼を評価するべきではないのである。なぜならば、彼は、「燕雀えんじやくいづくんぞ鴻鹄こうこくの志を知らんや（小人物には、大人物の心中は到底わかるはずがない）」タイプの人物であり、生きることに大いに希望を持ち、自己拡大欲求、上昇志向、そのためには努力をいとわないといったタイプだからである。したがって、このタイプの青年は、あなたが豊かな生活や権力を有した生活、名誉ある生活といったものを求めるタイプであるとするならば、その願望をかなえてくれる異性としての第一の関門は通過したこととなる。

しかし、このタイプの青年には、当然欠点も存在している。その青年は、物事を考える場合、一般には連続的思考が最もよいとされているのであるが、その思考ベースから外れ、飛躍的なものの考え方を行なう。そして、ムラ気であり、快楽型であり、このタイプと結婚を考える場



黒

黒は地獄?
それとも愛欲界の魔王?

BLACK

黒は最も光を吸収する色である。光を吸収すること
ことは、光の反対側のものであることを意味している。
つまり、この黒色は、あらゆる面での煩悩的欲求の象徴
なのである。そして、これも同じように光を放つ黒（光
沢のある黒）、光を放たない黒の二種類に分類すること
ができる。

●光を放つ黒

光を放つ黒は、煩惱を周りに拡散する。つまり、いろいろな欲望の対象を周りにばらまき、その欲望の対象に引きつけられたものは、その対象によって支配したいと欲しているのである。

ところで、仏教においても、キリスト教においても、マール（悪魔）の存在を経典や聖書によってうかがい知ることができる。わたしは何度もこの悪魔の軍勢と対決し、勝ったり負けたりしたものである。

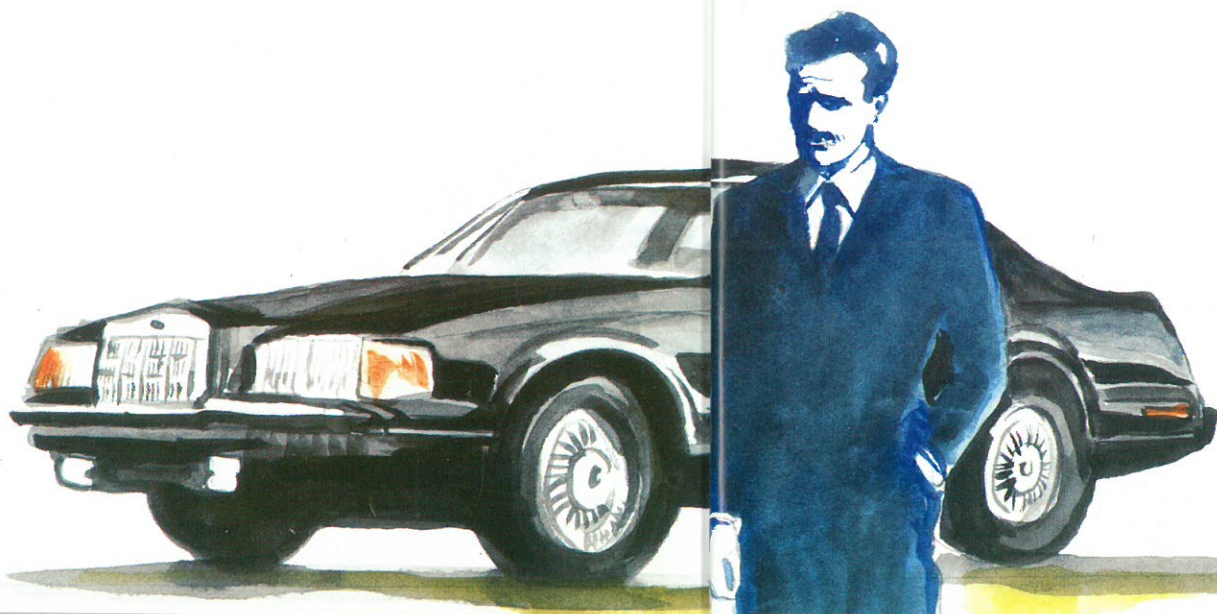
ここで悪魔の本当の正体を皆さんにお話したい。この悪魔の正しい意味は、愛欲界の王なのである。愛欲界の王の性質は、自分自身は功德を積み、そして高い世界を志向し、そこへ至る。しかし、周りの者の善行や功德に対しては、嫉妬し、ねたみ、邪魔をするのである。なぜかという、彼は、この愛欲界の構成をよく知ってお

り、もし自分以上の功德を積む者が現われたら、その者の力は強大となり、自分の地位が危うくなるからなのである。

よって彼は自分の配下の魂に対して、いろいろな煩惱を満たすことを約束し、充足させることによって、その配下の魂を使い、徳を積もうとしている魂の邪魔をした、あるいは自己の地位を脅かそうとする魂を攻撃するのである。

このことからわかるように、光沢のある黒を好んだり、着用したりする青年は、支配欲が強く、権力志向が強く、支配のためには、あらゆる手段を使うタイプなのである。

ゆえに、一生強い人に依存し、物質的に、あるいは煩惱的に満足のいく生活を営みたいと考える人にとっては、この色と光沢を兼ね備えた人は最高ということになる。しかし、この光沢のある黒を好む人は愛がなく優しさがない。大変冷たいのである。よって心の平静と平安は



この青年からは一生得られないであろう。

ところで、一昔前の会社の重役や代議士等が乗る大型乗用車の色が、なぜ光沢を放つ黒であったかご理解いただけだと思う。つまり、あの車の色こそ、欲望世界における支配者の色だったのである。

●光沢のない黒

次に光沢のない黒についてお話ししよう。まず初めに、光沢のない黒を選ぶ人は、この世で「えんじょい・はぴねす」したいと考えている人にとって天敵である。つまりこの人は死魔にとりつかれ、生命エネルギーが弱く、物質的傾向が強く、暴力的、排他的であり、大変な邪悪な心を有している。

しかし、この人の心は大変平静である。なぜならば、この世において何の目的も希望もないからなのである。

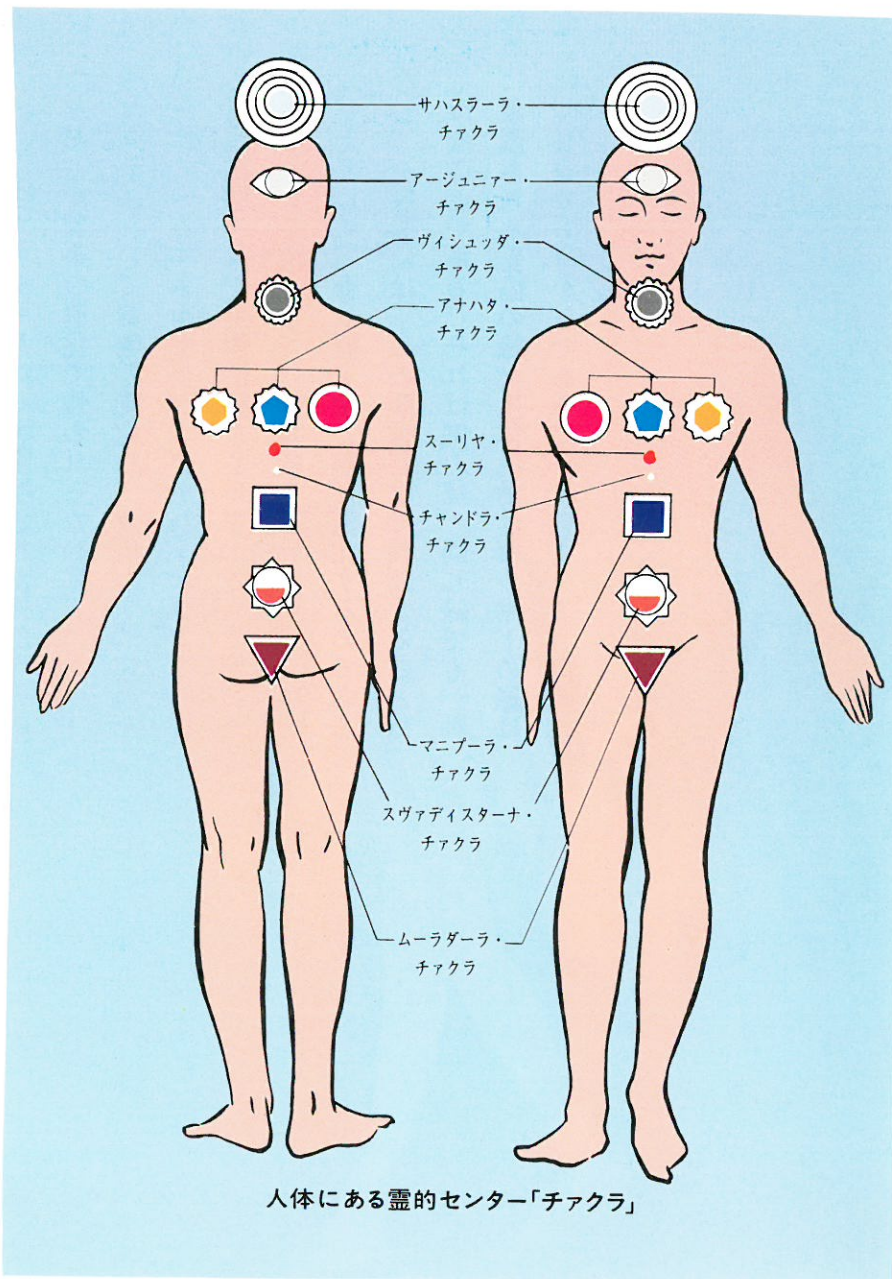
そして、この黒色こそ、地獄から射し込んでくる光なのである。

ところで、葬式には喪服がつきものである。そして、その喪服は黒と相場が決まっている。しかし、これは日本だけである。仏教伝来の地インドにおいては、お坊さんもそのような格好をしないし、また喪に服している人もそのような服を着ない。ではなぜ喪服の色は黒なのだろうか。

これには二つの理由がある。それは昔の霊能者が人の死を見る際、死ぬ人が闇に入り、黒い光に包まれていくのを千人中九百九十九人見たからに他ならない。これは、ほとんどの魂が地獄に落ちることを意味している。

つまり、この喪服の色は最も縁起の悪い色なのである。





そして、これは、尾てい骨に眠る根元的生命エネルギーの光、赤。その光が第二番目のスヴァディスターナ・チャ

赤 橙 黄 緑 青 藍 紫 (青紫→赤紫)

読者の皆さんは虹の色が順番にエネルギーの強さを表わしていることをご存じだろうか。そして、ヨーガ理論におけるエネルギーの強さとも密接に関係しているのである。

それでは、そのエネルギーの強さにおける色の順番をお教えしよう。次のとおりである。

虹色

虹色はエネルギーの強さのパロメーター

RAINBOW COLOR



クラにおいて性エネルギーに一次変換された橙色、その性エネルギーが食事の消化で使われるために、マニプーラ・チャクラにおいて黄色と変化し、黄色い、消化のために使われているエネルギーが、アナハタ・チャクラにおいて三次変換され、生体活動エネルギーとして使われる緑色に変化する。そして、神秘的な世界に至るためのエネルギーとして、青↓藍↓紫と喉で変化するのである。ただし、一般的には、この順番だけで判断することは大変危険なことである。それは例えば、同じ緑でも、動物界に象徴される妥協の緑と生体活動エネルギーの緑は、全く別のものであるからである。

赤

赤、それは慈愛から
怒りまでを表わす

RED

赤には、大きく分けて四つのタイプがある。光を放つ透明な赤、光を放つ濁った赤、暗いが透明な赤、暗くて濁った赤である。

それでは、これから、この四つのタイプの一つ一つについて説明しよう。

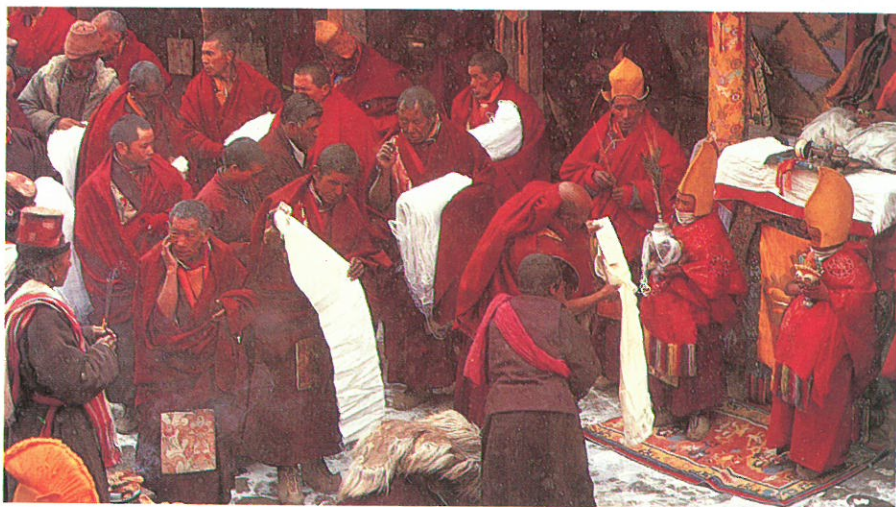
●光を放つ透明な赤

チベット仏教の僧衣は赤を基調としている。これは、チベット仏教の教えがアミターバ（阿弥陀如来）によって説かれたものであるとされ、そして、チベット仏教の最

高の悟りの状態は、アミターバと合一することであるとされているからである。

アミターバのシンボル・カラーは光った透明な赤であり、その意味合いは、純粋な智性と、慈愛である。つまり、透明な光った赤は、すべての魂に対する心からの慈しみの心——愛と慈しみ、そして、それを支える智性ということになる。よって、この色の服を好む人は、智的で優しいから、安心してついてゆけるタイプということになる。

しかし、この光は、形状界（色界）と密接に関係があるので、結婚してもいつその人が現世を出離し、出家するかわからないということをつけ加えておこう。

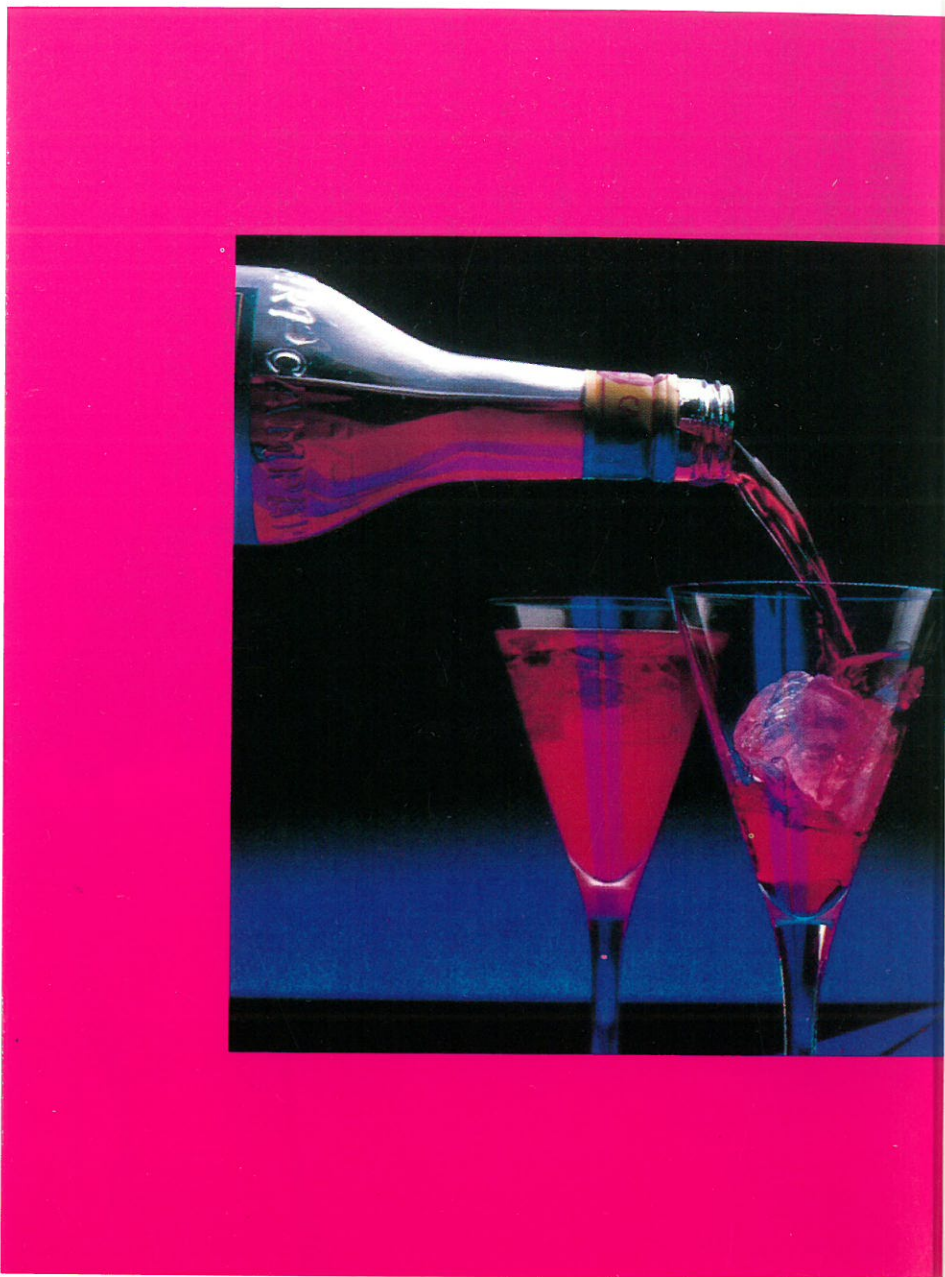


チベット仏教の僧衣は赤を基調としている。これは、チベット仏教の教えがアミターバ（阿弥陀如来）によって説かれたものであるとされ、そして、チベット仏教の最

高の悟りの状態は、アミターバと合一することであるとされているからである。

アミターバのシンボル・カラーは光った透明な赤であり、その意味合いは、純粋な智性と、慈愛である。つまり、透明な光った赤は、すべての魂に対する心からの慈しみの心——愛と慈しみ、そして、それを支える智性ということになる。よって、この色の服を好む人は、智的で優しいから、安心してついてゆけるタイプということになる。

しかし、この光は、形状界（色界）と密接に関係があるので、結婚してもいつその人が現世を出離し、出家するかわからないということをつけ加えておこう。



● 光を放つ濁った赤

この光と色彩を好む人は、大変智的ではあるが、性欲の強い人ということになる。このタイプの人とのつきあいは、濃厚なセックスだけが二人をつなぐ強いきずなであり、また、その相手も強いセックス・アピールを有している。しかし、この人は愛欲界に属し、感情の揺れが激しく、愛著あいじやくと嫌悪といったような両極端の性質を備えているのである。したがって、うまくいくときは愛著優位になるがゆえにそれでもよいが、いったん関係が壊れそうになると大変な恐怖を味わうこととなる。

一般に、この色と黒との両方の色を好む場合、刃傷沙汰が多いのである。

● 暗い透明な赤

このタイプの人は大変知的である。しかし、ここでの知的というのは、知識コレクター的な知的なのである。しかし、彼には、知識を完全に使いこなせるだけの徳性は存在しないのである。つまり完全な秀才型が多い。そして、このタイプは光が強くない限り、決して出世は望めない。つまり、学校で優秀なだけである。もし、こういう彼を持っていたら、できるだけ一流企業に就職させるべきである。そこで一つのパートを担当するのに向いているからである。

● 暗く濁った赤

この色は、まさに性欲の色である。このタイプの色を好む人は誘惑に弱く、そして無智である。無智であると

は、知的優秀性が存在しないことを意味しているのである。それゆえに、考えることもできず、情報に流され、性欲のことだけをいつも考えているのである。したがってこれをお読みのあなたが、真面目な人であるなら、このようなタイプの人を恋人として選ぶべきではない。





天の光

今生はびねす、
来世もはびねす四天界

LIGHT OF HEAVEN

仏教には、いろいろな天界の分類法が存在している。その中の一つの分類法は、天界を四つに分ける方法である。この四つとは、下から順に、かすかな光の愛欲神天・無量の光の愛欲神天・混じり物のある光の愛欲神天・欠点のない光の愛欲神天である。

現代の日本人には、あまり聞き慣れないこの四つの天界の分類法は、サキヤ神賢（釈迦牟尼如来）の弟子の中で「天眼第一」「来世を見る力第一」と称され、サキヤ神賢の大完全煩惱破壊（涅槃）のとき、ただ一人サキヤ神賢の煩惱破壊のプロセスを透視し、神々の意向を理解し、それをサキヤ神賢の弟子たちに伝えて実行させた大

聖者アヌルッダの分類した方法である。

この四つの天界の意味合いは、

① かすかな光の愛欲神天

人間界より高い世界ではあるが、徳の差は人間界とあまり変わらない神々が住んでいる世界である。この世界の魂の寿命は、煩悩的であるか、禁欲的であるかによって違ってくる。煩悩的である場合は寿命が短く、禁欲的である場合は寿命が長い。

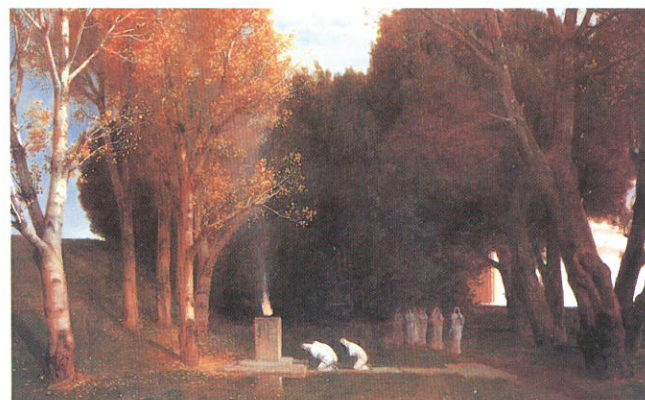
② 無量の光の愛欲神天

この世界の神々は、大変な徳の持ち主である。サキヤ神賢が生まれたとき、アシタ仙人^{せんじん}が、「この魂は、転輪^{てんりん}王^{おう}になり四つの大陸を統治するか、あるいは真理勝者^{まじつしょう}（如来）となり大救世主となる」と予言したが、アシタ仙人の見た光は、まさにこの無量光だったのである（この話は後世の異説であるが……）。

しかし、あくまでも光は徳を表わすのであって、その無量光の魂がどのような生き方をするかは、その光が煩悩的であるか、あるいは清澄であるかによって違ってくるのである。もし、煩悩的な光であれば、転輪王としてその生を活躍するであろうし、もし清澄な無量光であれば、真理勝者として多くの魂に煩惱破壊させるであろう。アシタ仙人がサキヤ神賢に教えを乞いたいと真に思ったのは、アシタ仙人が光の強さは見て理解することができても、光の性質については見て理解することができないステージだったからである。

③ 混じり物のある光の愛欲神天

天界へ至るためには偉大な徳さえ積みめればよい。そして、その混じり物のある光の愛欲神天は、煩悩を満たしながら偉大なる徳を積んだ魂の行く神々の世界なのである。したがって、混じり物のある光の愛欲神天の特徴は、功德の消耗が激しいところである。

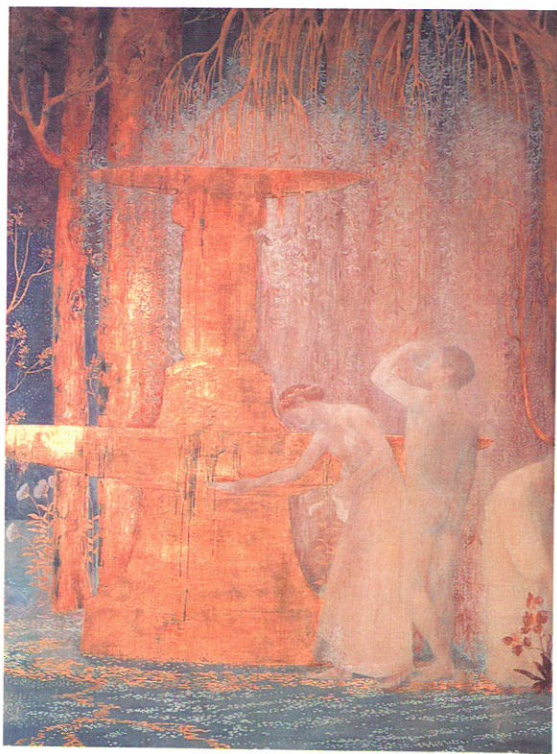


④欠点のない光の愛欲神天

この天界には、真面目な真理に基づいた戒律を遵守する魂が住んでいる。

また、ここは最も高い天界なのである。なぜならば、魂が清らかだということは、現象を正確に映し出すことができるということに等しいのである。そして、それは、現象を正確に自己の心の中に映し出すということであり、その背景に潜む真理の法則を使いこなすことができるということに他ならない。つまり、真理の法則にのっとって生きるからこそ、最上の天界への道なのである。『転輪獅子吼経』によると、天の輪宝りんぼう（この輪宝の所有者は四大陸を統治することができるといわれている）の意味合いは「利益を引き起こす最高のものとして、真実を見極める眼をもたらず」とある。つまり、すべての世界を通して最高のものは、真実を見極める叡智えいちなのである。そして、この天界の魂は、それを有しているのである。

わたしが、ここで四つの天界の説明をしたのは、「色別恋人判定法」と深い関わり合いがあるからである。つまり、天界という上向傾向の世界の魂にも四つのタイプがあるということなのである。そして、心の清らかな人こそ現世においても最高の伴侶となるのだということはいうまでもない。



橙

愛欲界の色、
それは橙（オレンジ）

ORANGE

この橙色には大別して光を放つ透明な橙色、光を放つ濁った橙色、暗いが透明な橙色、暗くて濁った橙色の四種類がある。

この橙色は、純粹に生まれつきの生命エネルギーを表わしており、その人が性的にどのような生き方をするかを見ることができるのである。

●光を放つ透明な橙色

インドへ行くと、この橙色の透明感のあるルンギーとガムチャというシルクの布を体に巻きつけている聖者に



出会うことがある。この光を放つ透明な橙色というのは、ヨーガ修行者の到達地点を示しており、これは、『えんじょい・はびねず』の「宗教は一つの道」の中に書かれている戯れ墮落天の中で、ほんの少しだけ煩惱を有している魂に相当するのである。

つまり、結婚して楽しい家庭を築きたいあなたにとって、この色を好きな異性はあまりそういうことに興味がないので要注意ということになる。

しかし、この色は、精力もまた表わしている。性エネルギーを昇華し、インド・ヨーガの目的であるクンダリーニ・ヨーガの成就をするためには、絶大な性エネルギーが必要なのである。

これは、恋人を性的に十二分に満足、いや飽和状態にさせてくれるほどの精力と性欲の持ち主だといっても言い過ぎではないほどである。

したがって恋人としては最高だが、結婚相手としては不適格ということになる。

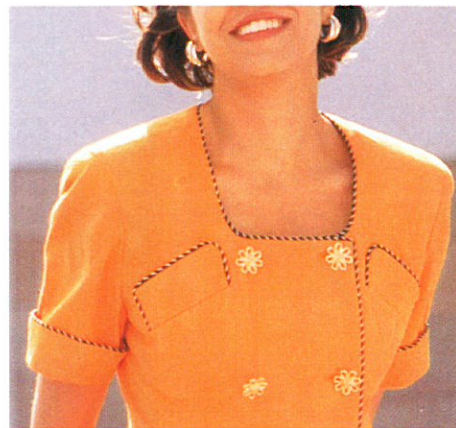
また、この色は活動力を表わすから、この異性は活動的、積極的、仕事熱心と見てよいだろう。

●光を放つ濁った橙色

前号でもお話したとおり、わたしには七百名以上の出家した弟子がいる。当然これだけの人数がいるわけだから、戒律をしっかりと守る人がいる反面、戒律をあまり守らない人がいても不思議ではない。

そして、戒律をあまり守らない成就者のタイプがこの色を好み、また彼ら自身この色を放っているのである。彼らは、大変真面目に行を行ない教団に対する奉仕活動も一生懸命行なう。しかし、もともとこの性欲のエネルギーである橙色に濁りがあるため、完全なる昇華、そして光へと還元するプロセスがうまくいかないのである。

よって、活動的ではあるが、性エネルギーを智慧へと還元することができず、智性において欠落が生じるので





ある。

この光り輝く濁った橙色を好む異性は、精力絶倫、性的に遊び上手、浮気型、異性に優しい、智性はそれほど高くないがプライドは高いなどの特徴を持っている。

わたしがなぜここで浮気型という言葉を使ったのかというと、実際に浮気をするというより、イメージの世界においていろいろな異性と交わることを楽しむタイプなのだからである。

この色を好む異性は一見マイホーム型であり、子供に対する執着も強いのである。したがって、良き伴侶となる異性に見えがちだが、今述べたように彼や彼女の行動とイメージが別々に進行しているのだから、行動だけを見て安心したら青天のへきれきの結果を招きかねない。

なお、このタイプの異性に対しては、絶えず綺麗で上品な言葉を語り、ムードを作ることにより心がけるならば、素晴らしい恋愛、素晴らしい結婚生活が約束されるだろう。

● 暗い透明な橙色

この暗い透明な橙色を好む異性は、性的に潔癖で、禁欲生活を好んだり、恋愛をしたとしても一人の人に集中する。また、平凡な恋愛や結婚生活を考えている読者諸氏にとって最高の相手なのである。

ただこのタイプは性的に大変淡泊で、体もあまり強くなく、仕事についても、決められたことを望むことは難しいのである。まさに、家を守る貞節な妻、貞節な夫という感が強い。

このタイプの異性と交際するためには、ただ真面目に、誠意をもって接するのが一番である。

● 娼婦の色 — それは暗く濁った橙色

わたしは今まで十万に近い数の人の相談を受けた。そ

の中には当然会社の社長もいれば水商売の仕事に従事している方もいた。水商売の中でも特に娼婦^{しょうふ}を職業としている人は、決まってこの暗く濁った橙色を放っているのである。そして、この職業につきものの堕胎を行なっている人は、その堕胎した数によって鈍い黒色を放っているのである。

つまり、この暗く濁った橙色は、性的にけがれた色、あるいは、みだらな色と言い換えることができる。

そして、当然この暗く濁った橙色を放つ異性の生命力は弱く、そのため、そのエネルギーが昇華され叡智へと還元されることがないため、人生における直感的判断が鈍り、決して幸福にならないことは確かだろう。

わたしは信徒の相談をシークレット・ヨーガという形で受けている。あるとき、相談にきたS子さんは、マントル嬢として働き、この十年間、月に三百万ほど稼いでいたそうであるが全くお金は貯まっていなかった。

わたしは彼女のバルドー（心の発する光の色）を見、



彼女のバルドーが暗く濁った橙色であることを知ったので、

「あなたは必要のない物を衝動的に買い、それを使わないでため込んでいるでしょう。」

という話をした。彼女はわたしの言葉によって、ストレスによって衝動的に物を買ひ、それによって少しも貯金できないのだということを認識した。

これからもわかるとおり、この色を好む人は、衝動的であり、ストレスが多く、決して幸福になれないのである。

しかし、娼婦の色イコール暗く濁った橙色でもわかるように、単に性欲を満足させるための恋人や妻を望むのなら、この色を好む異性でも十分であろう。ただ、この異性によって、少なくとも晩年の生活は、何度となく破局に近い状態が待っていることを疑う余地はない。

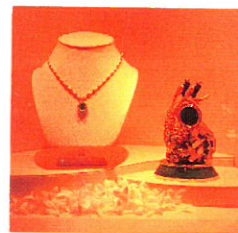
智慧ある読者は濁りの意味合いについて理解できたはずである。つまり、この濁りこそはその人のなした経験

であり、例えば、暗く濁った橙色といった場合、お金をもらうことが第一の目的の性的サービスを経験としてなした、つまり、肉体の快楽をお金のために売ったという経験の蓄積によって暗く濁った橙のバルドーの色を娼婦の方々は呈するのである。

では現代の一部のフィリピン人の娼婦や、江戸時代、借金の肩代わりで遊廓^{ゆうかく}に身を売らねばならなかった人たちのバルドーの色はどうなのであろうか？

それは、その人たちの心が父母に対する愛情や、あるいは、自己の利益にならない娼婦としての生活だっただろうから、この暗く濁った橙色を呈することはない。あくまでも、自己の金銭的、物質的欲望を満たすために体売った人のバルドーの色が暗く濁った橙色なのである。

最後に、この色を好む異性とのつきあいにおける注意点と言うなら、彼や彼女が自己の利益のために身を売ったり裏切ったりするのは当然であると納得した上でつきあうべきであるということである。





黄

黄色、それは貪りの色

YELLOW

●光を放つ透明な黄色

成功の背景には、この透明な光る黄色が不可欠である。必ず大事業を成し遂げた人はこの光を発しているのである。この光の意味合いは、強^{きやうじん}靱な意志を持ち、財物の布施を限りなくなしたということを表わしている。

ところで、仏教のシンボル・カラーは黄色である。この黄色は仏教の出家修行者たちが過去世において強い意志を持ち、大いなる財物の布施をなしたということと、その結果として仏弟子となったときに黄色い衣を羽織り、

強靱な意志を有し、前世の布施の果報として布施を受けるに値することを表わしている。

また、この光を放つ透明な黄色は、密教部においても、五仏の一つであるラトナサンバヴァ（宝生如来）（ほうしようにょらい）を象徴する色に数えられている。ラトナサンバヴァは宝生——つまり、宝を生む仏として礼拝の対象となっている。

したがって、透明な光る黄色を好んで着る人は、意志力が強く、未来において必ずあなたを成功した事業家の妻にしてくれるんだと確信を持っていいたいだろう。

●光を放つ濁った黄色

光を放つ濁った黄色を着ている人は、気前はいいが貪むさぼりの強い、しかも自己主張の強い人が多い。

もともと、この光を放つ濁った黄色はエゴの象徴として用いられる色であり、心の内なる要素を透視すると、確かにエゴは黄色い、少し濁った光った輪として見るこ

とができる。

今から五年前、ある弟子に強烈なイニシエーション（霊的なエネルギー移入）を行なったことがある。その弟子はもともと貪りが強く、大変自意識が強かった。頭頂からエネルギーを入れると、濁ってどんよりとした黄色い輪がずっと見え続けていたのである。

彼は、そのエンパワーメントによって解脱を得ることができた。しかし、解脱をした後、シャクティーパーツ（イニシエーションの一種）を信徒に対して行なった彼は、また煩惱を生起させ、貪りによって現世へと落ちていってしまったのである。

ただし、この色は貪り＝愛着の象徴であるから、自身自身の気に入った者に対しては、徹底的に尽くすはずである。したがって、物欲主義的な人生観を大切にしている人たちにとっては、格好の相手だと思われる。





● 暗い透明な黄色

この暗いが透明な黄色を好む人は、布施をしない代わりに物欲もなく、意志の力が強い人である。心には否定的想念が多い。ただし、自分の専門分野に対しては大変強いものである。

インド・ヨーガの修行者の衣に、ルンギとガムチャと呼ばれるものがある。ルンギにしるガムチャにしる、一枚の布で作られており、それをうまく上半身と下半身に巻きつけて衣とするのである。

このルンギとガムチャの色が、ステージを表わしているんだということを、わたしはインドへ行ったときに聞いたことがある。そして、暗いが透明な黄色は、まさに出家修行の入門者が着る色なのである。

これはなかなか興味深い。なぜならば、現代のインド・ヨーガの王といわれているものはラージャ・ヨーガであ

り、これはまさに精神集中＝意志のヨーガなのである。

そして、入門者が物欲を捨てて出家したこと、また、徳がまだ備わっていないがゆえに布施を受けられないことを考えると、まさにこの色がぴったりであるといわざるを得ないのである。

よって質素な夫婦生活を営みたいと考えているあなたにとって、この相手は最適かもしれない。

しかし、この相手は自制だけでなく、他人に対しても制約を加える可能性が高いことを知っておく必要があるだろう。

つまり、禁欲的な生活を望む相手として最適なのである。

●暗く濁った黄色——まさに霊能者の色

暗くて濁った黄色の説明に関連して、愛欲界の構成について触れておかなくてはならない。なぜならば、現代の仏教徒が、あまりにも無智なるがゆえに、結果的に諸現象の説明ができないという哀れな状態をつくり出しているからである。

例えば、ある号の『月刊宝石』にオウム真理教と幸福の科学に対する批判記事が載っているのを見た。結局わたしに興味あるところは、オウム真理教に対する批判内容であつたわけだが——まあ、その批判内容は取るに足らない内容なのでここには書かないが——ここで登場した佐伯真光氏（湘南工科大学教授）、浅見定雄氏（東北学院大学教授）の仏教に対する無智について少し説明したいと思う。

もちろん、浅見氏は旧約聖書を専攻しているらしいから、仏教の門外漢であるといわざるを得ないので彼の発言はさておき、問題なのは佐伯氏の発言である。彼は真言宗の僧侶であり、大学教授であり、仏教徒であるというのに、霊の問題について、

『霊とは何か』（大法輪閣）という本に五十～六十人の



宗教学者、仏教学者がそれぞれ答えを書いているわけです。みんな違うことを言っている。定説はない。結局、仏教は霊というものについては不可知論です。私もこの意味では不可知論者ですけれども、ただわからないと言っている懷疑論ではなく積極型不可知論者。

と語っているが、これは大きな誤ちである。

もともと日本の仏教には餓鬼^{がき}という言葉があるが、この餓鬼はサンスクリット語でプレータと表現され、低級霊域を表わしているのである。

彼は、仏教学者として、僧として、そしてインテリゲンチアの代表として、このような発言をしたのだろうが、彼の過ちは大変大きなものであり、この雑誌を読んだ多くの人に正しくない仏教観を植えつけてしまったであろうことは間違いない。

なぜこの項においてこの問題を取り上げたかというと、まさに暗くて濁った黄色が餓鬼、すなわち低級霊域の色だったからである。

また、ここで愛欲界の説明をきちんとしておくことにより、完璧な真理を体現なさったサキヤ神賢が、いかに正確な言葉を使っていたかということを皆さんに知っていただきたいからである。

次にわたしが述べる内容は、わたしの体験が仏典どおりだったということから、その正確さを裏づけるものである。

今から一年以上前、サマデイ^{※1}（三昧^{さんまい}）に入り、死生智^{※2}に没入しているとき、マハー・ケイマ正大師^{せいだいし}が第一天界の女神として転生し、わたしの弟子の一人が餓鬼として転生して彼女に仕えているヴィジョンを見た。

そこでわたしには一つの疑問が生じた。というのは、第一天界の神と餓鬼とが同じ世界に存在していたからである。

わたしは、常々、仏典の翻訳が完全になされるにしがって、わたしのサマデイ体験はすべて説明がつくと考



※1 瞑想の究極状態。

※2 転生先を知ったり、生きながらにしていろいろな世界とつながる神通力。

えていたが、この体験についても今年になってその回答を得ることができたのである。

つまり、わたしが、彼女が第一天界の女神だと見て直観したのは正しく、彼女は第一天界の人喰い鬼神の女神だったのである。なぜならば、パーリ仏典のプレータの説明において、このプレータは低級霊域に存在し、第一天界の人喰い鬼神に仕える」と述べられていたからである。

ところで、マハー・ケイマ正大師も、昨年の終わりだったか、今年の初めだったか、自分自身が大変大きな身体を持ち、人を食べる経験をしたと話していたものである。つまり、わたしの見たものと彼女の経験も一致していたのだ。

また、今から五、六年前の話であるが、わたしの妻であるヤソーダラーの霊界には、たくさんのお客にいうところの「かわいい猫」が存在しており、彼女の心が乱れているとき、決まってわたしはその猫たちに噛まれたのである。わたしは彼女の来世を見て、彼女が修行しなければ、来世は猫神様、つまり成長天の侍神に転生すると話して

いたわけだが、それも今年の仏典研究によって間違いなかったという確信を得たのである。

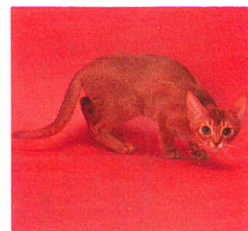
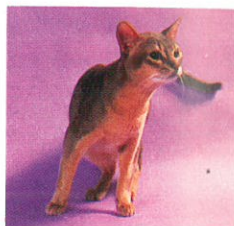
これからもわかるとおり、まさしく日本の仏教でいわれている餓鬼の世界こそ霊の世界であり、低級霊界は存在するのである。

そして、それはとりもなおさず、オウム真理教で説いている三界の構造（7 p 図参照）が正しいことを意味しているのである。つまり、この低級霊域こそ、下位アストラルなのだ。

したがって、佐伯真光氏の言っている「仏教徒は霊に對して不可知論を唱える」というのは真ッ赤なウソということになる。

また、これはこのような人が僧侶であり、また教授として社会の評価を得ている日本の実情、つまり仏典研究の遅れにこそ大きな問題があるのである。

では、この低級霊域に転生した魂はどうなるのかというと、この魂はいずれ地獄、動物界、人間界等へ転生す



るのである。

仏教は心の表われである。そして、この愛欲界もすべて心の働きということで説明がつく。

例えば、地獄は正確に訳すと激苦地獄と表現され、これは大きく分けて三つのパートに分類することができる。もちろん、これをより細分化することもできるが、それはこの論題と反するので、この三つの分類法にとどめておく。

第一番目の地獄は、邪悪心を背景とした地獄である。現代的な言葉を使うならば、激しい憎しみの集積の世界がこの世界であり、これが熱による激しい苦しみの世界として表現されている。

第二番目の地獄は、冷淡さの集積によって形成されている世界である寒冷地獄である。この寒冷地獄へ至る魂は、例えば墮胎を平気で行なう女性だとか、人を冷酷な策略によって陥れる人が行く地獄である。そして、この地獄では寒冷によって激苦を受けるのである。

第三番目は、激しい憎しみや冷淡さはないが、生計を

立てるために多くの生き物を殺す人たちの行く地獄である。この地獄は、剣や針などといった金属の刃物で激苦を味わう地獄なのである。

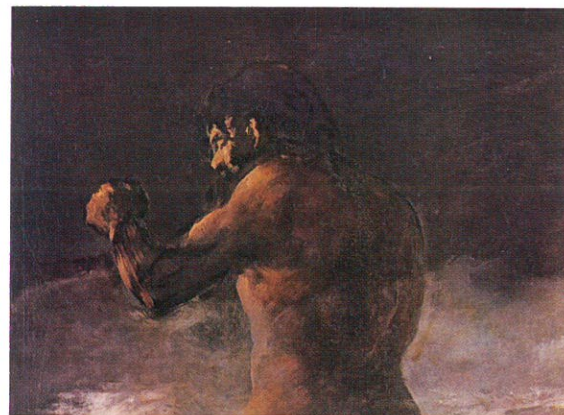
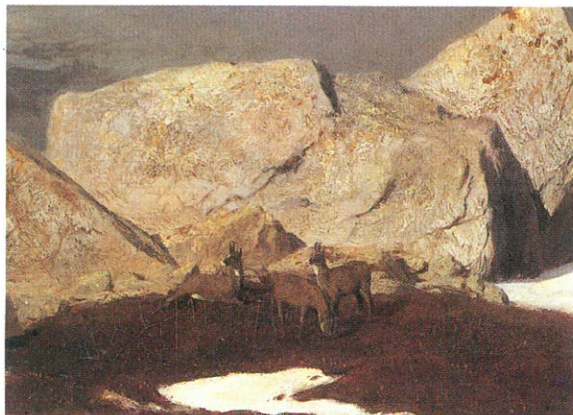
そして、地獄全体の様相は、これら三つのヴァリエーションで成り立っているのである。

下から二番目の世界は、動物の世界である。わたしがサキャ神賢を偉大だと感じるのは、動物の世界へ転生すると言わず「動物としての発生」という言葉をサキャ神賢は使っていないという点である。

この動物としての発生は、動物として生まれ出るということであり、わざわざ魂が人間として生まれる人間世界と区別しているのである。つまり、同じこの愛欲界に生まれ出るにしても、動物の方がより粗雑であるということを含めているのである。

現代の生物学においても、「発生」という言葉を使っているのは興味深いことである。

ところで、この動物としての発生へと至る心の機序は、



根本的無智を背景としている。つまり、低級靈域にいた魂が、より具体的満足を得ようとしてこの動物の世界へと発生するのである。

下から三番目の世界が低級靈域である。この低級靈域は、二つの魂の構成から成り立っている。

第一のパターンは、愛欲を有している魂で、具体的な例えば動物としての発生とか、人間世界とか、はっきりと特徴が固定されていない場合である。

第二のパターンは、具体的な世界よりイメージの世界を好む魂で、愛欲を有している場合である。前者の方が後者よりこの低級靈域から他の世界へ転生するスピードは速い。

さて、第四番目の世界は人間界である。よってこれは説明の必要もなからう。

第五番目は意識墮落天である。この意識墮落天は別名巨人族ともいい、子宮転生である。この世界は、現代の人間世界の理想的なモデルケースともいえる世界であり、

また人間人イコール意識墮落天としても構わない。

愛欲界の最高位に属するのが戯れ墮落天である。この世界は大きく分けて六つあるが、その一つ一つの説明を詳しくしてもここではあまり意味がないので、それぞれの欲望に応じた最高の世界という定義にとどめておきたいと思う。

例としては、徳を積み、性的欲望を満足させたいと願う魂はナーガ（龍王）へと生まれ変わり、徳を積み音楽へとふける魂はガンダッパ（花香居半神音楽神）へと生まれ変わり、徳を積み食にとらわれている者は人喰い鬼神として生まれ変わり、徳を積み舞踏を好む人はクンバンダ（所有壺形強力生殖器妖精）へと生まれ変わるのがある。

さて話を元に戻すが、これらの話からもわかるとおり、濁った暗い黄色は低級靈域の象徴であり、決して恋や結婚の対象として選んではいけない相手なのである。

